令和6年 飯田市教育委員会 11月定例会会議録

令和6年11月12日（火） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	三浦 弥生
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
学校教育課長	福澤 好晃
学校教育専門幹	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	上沼 昭彦
文化会館館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
中央図書館長	瀧本 明子
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
学校教育課長補佐兼教育企画係長	倉田 奨
学校教育課 教育支援指導主事（統括）	三尾 利彦

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） それでは時間になりましたので、日程の第1、「開会」。

ただいまから令和6年飯田市教育委員会11月定例会を開きたいと思います。

これより本日の会議を開きます。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第2、「会期の決定」です。

今定例会の会期につきまして、本日11月12日の1日間といたしたいと思いますが、ご異議ございますか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） では、このように決定をいたします。

次に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 日程第3、「会議録署名委員の指名」。

会議録署名委員として林 綾子教育委員を指名いたします。

◇教育委員（林 綾子） はい、承知しました。

○教育長（熊谷邦千加） 次の日程に進みます。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 日程第4、「会議録の承認」。

10月の定例会の会議録につきまして承認を求めます。

あらかじめ原案を各委員のほうへお送りしてございますけれども、何かご異議ございますか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

会議録は承認をされました。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて日程第5、「教育長報告事項」。

お手元に配布の11月の教育委員会定例会教育長報告事項を御覧いただきたいと思います。

教育委員の皆さん方も参加されております、伊那谷文化芸術祭について、飯伊市町村教
委連絡協議会のあいさつの中でもちょっと申し上げましたが、ほかの演奏会だとちょっと
もう少し拍手のタイミングを考えたりするんですけど、指揮者が出ると拍手、頭を下げて
また拍手、曲が終われば拍手と、応援したいという観客の皆さんの思いが非常に溢れてい
るなあという印象がありました。高校の部活動の出演も多くある中で、単独でも大人の社
会教育団体と一緒にいいので中学生、小学生の出演がさらに増えるといいなあというよ
うなことも感じました。

それから、郡市連合音楽会の復活が5年ぶりに行われ、行ってまいりました。これは下
伊那教育会が主催ですけども、手挙げ方式で全部で46校が参加したということです。5年
前までだと会長が開会にあたってあいさつをしていました。今回は会長が手を挙げて参加
した学校それぞれを読み上げて、「何々小学校」とその小学校の子どもたちが立ち上がり、
全員で拍手しました。立ち上がっている子どもたちも笑顔で手を振って、非常にいい雰
囲気だったなっていうふうに思います。堅苦しいというよりは音楽を楽しむ、出て発表す
ることを楽しむみたいな形で、そんな雰囲気にならなかっていうことが非常にいいなあとい
うふうに思いました。

それでは昨日ですが、飯田高校の学校評議員会に行ってまいりました。今回は、飯田高
校の生徒会自治会の会長、それから副会長、そして高松祭実行委員長の皆さんがこんな生
徒会、生徒自治会にしたいっていう発表をしていただいて、それに対して学校評議員がい
ろいろ感想や助言をすると、そういう2回目の会議なんですけど、ここ数年そんな形をとっ
ているようですけども。

その中で、生徒自治会長さんが「ボランティア活動の活性化を図りたい」と、そのため
に「ボランティアの土台を固めたい」という発表がありました。「中学校時代にボランテ
ィアステーションの経験があって、それを高校でもできないか」というようなこと言っ
てました。やはり中学校時代のボランティア経験が高校に至っても生きてるっていうこと
なので、私のほうでも「ムトスぷらざに上沼公民館副館長さんという人がいるので、その
人にぜひ相談してみてください」と言っておきました。また声がかかったら一緒に相談に
乗っていただければなというふうに思っています。

いずれにしても、役員の皆さんは、高校生活で主体的に送ろうというそういうエネルギ

一が溢れていて、なかなかそういう高校生は多くはないらしいですので、応援していきたくらなということを感じた次第であります。

最後に、ここにはございませんが、教育委員の人事につきまして、皆さんの人事につきまして、次の審議会の中で案として議題として出されます。そういう中での2期8年お務めいただいた三浦委員さんが、ここで大変残念ではございますが、長く務めていただいたというようなことで交代という形になる予定でございます。また、それについて後でごあいさつをいただければというふうに思っております。本当にありがとうございました。

◇教育委員（三浦弥生） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） しかし、まだ任期が残っておりますので。

◇教育委員（三浦弥生） よろしくお願ひします。

○教育長（熊谷邦千加） 私の報告につきまして、何かご発言ございましたらお願いいたします。
（「ありません」との声あり）

日程第6 議案審議（1件）

○教育長（熊谷邦千加） それでは、日程の第6、「議案審議」に入っております。

議案第60号 令和6年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 議案第60号ですが、「令和6年度飯田市就学援助費支給対象者（要保護及び準要保護児童生徒援助費補助金関係）の認定について」を議題といたします。

議案の説明をお願いします。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは、議案第60号、令和6年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、3ページをお願いいたします。

認定対象者につきましては、別紙資料No.2でご用意をさせていただいておりますとおりでございます。それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第5条第1項の規定により、支給対象者として認定をいただきますようご提案申し上げます。

よろしくお願ひいたします。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑・ご発言等ありましたらお願いいたします。
（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議ございませんでしょうか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは、お諮りいたします。

議案第 60 号、原案のとおり認定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

議案第 60 号は、原案のとおり認定をされました。

では次の日程に進みます。

日程第 7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第 7 「協議事項」。

（1）学園構想に係る規則等の改正について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、学園構想に係る規則等の改正についてを議題といたします。

議案の説明を求めます。

倉田学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） 学校教育課教育企画係の倉田と申します。

それでは、私のほうから学園構想に係る規則の改正について、ご説明をいたします。

別紙で本日資料をお配りしております、飯田市中学校併設型小学校及び小学校併設型中学校における小中一貫教育の実施に関する規則（素案）を御覧ください。

今回の規則の制定についてですが、先月ご決定いただきました「飯田市立小中学校の今後のあり方に関する方針～第 1 次～」、これを具体的に進めるにあたって、小中一貫教育を進める学校を設定する、学校を制度化するというそういった規則となっております。

それでは、御覧いただきたいと思います。

まず、規則のタイトルになっております中学校併設型小学校と小学校併設型中学校についてですが、これは文科省で小中一貫教育を進めるために制度化している学校種、義務教育学校と小中一貫型小中学校のうち、小中一貫型の小中学校について、これをどういう設置者が設置しているか、そこに着目をしてさらに文科省では細分化しております、設置者が同一の場合には併設型と称しておりますので、この名前での規則としております。

そして、この規則の趣旨についてですが、第 1 条にありますように、この規則は小中一貫教育を実施するために必要な事項定めるものとしております。

第2条につきましては用語の定義ですので、また後ほど見ておいていただければと思います。

第3条以降には具体的な内容が入っております。

まず、第3条についてですが、各中学校区の小中学校で学園を構成し、どういう学園名で呼称するのかということを一覧表としております。

第4条では、学園長のことを規定しておりまして、学園の中の小中学校長の中から学園長を置くという内容になっております。規定上では、教育長の指名に基づき、教育委員会が任命をするという内容になっておりますが、実務上では各学園から推薦をしていただいた方について、教育長が指名し、教育委員会で任命するというそういった流れになると想定しております。

また、学園長の果たす役割についてもこの規定をしておりまして、小中学校間の総合調整を行い、教育目標やランドデザイン、カリキュラム、地域等との連携、小中一貫教育に係る点検・評価等を指揮監督することとしております。

また、裏面にいただきまして、第5条には副学園長についての規定を記載しております。

また、第6条についてですが、実際に各学園で小中一貫教育を進めるための組織としまして、各学園に小中一貫教育推進会議を置くということ規定しております。

各学園において小中一貫教育をどのように進めていくのか、推進計画や評価についてを検討する組織、こういった組織の想定をしております。具体的な実務部分、例えば特別教科のカリキュラムづくりであったり、教科ごとで一貫教育にどのように取り組むかを検討したりという部分については、さらにこの学園内に、この推進会議の下にさらにそれぞれ部会のような組織を設けて実務的なことを進めていくということ想定しておりまして、また現在、校長会の中でもこういった組織体制についての議論を進めていくというところではありますが、こういった実務的な会議を統括するものとして、学園ごとに小中一貫教育推進会議というものを設けたいと考えております。

この規則を令和7年4月1日から施行することで、制度としての学園をスタートするということとなります。なお、この内容についてですが、現在、飯田市の文書法規担当にも内容の確認を依頼しておりまして、表現等についてはまだこれから修正をすることもありますので、ご承知おきいただければと思います。

また、本日は記載しておりませんが、この規則を制定するとともに、さらにこの学園に関わるものとして、例えば学校運営協議会についての規則でありますとか、小中連携・一

貫教育、今まで進めてきた要綱等につきましても今後改正を予定しております。

まず本日は、この小中一貫教育を進めるための一番大元になる規則について、教育委員の皆様のご意見をいただきまして、本日いただいたご意見を踏まえて、さらに来月以降の教育委員会定例会に議案としてお諮りして、決定をしたいと考えております。

私からの説明は以上でございます。よろしくお願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑などご発言がありましたらお願いいたします。

野澤教育委員。

◇教育委員（野澤稔弘） この学園をまたいでしまうところが、小学校から中学校とかあると思うんですけども、この辺のところどういうふうに整合性を保つというか、やっていく理由は何か一工夫考えなきゃいけないかと思うんですけど、何か素案というか腹案というかそういうものはございますか。

○教育長（熊谷邦千加） 関わってございますか。

はい、じゃあ倉田学校教育課長補佐。

◎学校教育課長補佐兼教育企画係長（倉田 奨） 今、野澤委員からおっしゃっていただいた部分、これについては、飯田市の文書法規担当からもやはり同様の指摘がございまして、同じ学校が複数の学園にまたがっているということについて、規則上どうこれを表現していくのかというところに課題があるということは、指摘を受けている部分でございます。なので、これを、まあ現状ではこういう形になってしまうということで現状の形のままでいくのか、それともある程度分けるのかというところは、この規則上では考えないといけない部分ということでございます。

それとともに、以前より通学区域の課題について、特に丸山小学校、龍江小学校については、地域の説明会の中でも様々なご意見をいただいておりますので、こちらについても、今後、審議会での検討進める中で方向性を見いだしながら、今後の方針の中にどういう方向性としていくのかというところを方針の中に入れていければと考えているところでございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

さらにいかがでしょうか。

協議ですので、何かお気づきの点、ご質問いろんなことでもあればご発言いただいて、それを基に検討進めたいというところでございます。

よろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） では、質疑がなければ、協議につきましては以上にいたします。
次の議題に移ります。

(2) 令和5年度長期欠席児童生徒の状況について

○教育長（熊谷邦千加） 令和5年度長期欠席児童生徒の状況についてを議題といたします。
議題の説明をお願いいたします。
三尾教育指導主事統括をお願いします。

◎教育支援指導主事（統括）（三尾利彦） それではお願いします。

紙1枚の資料になっております。10月31日の国と県の発表を受けまして、飯田市の令和5年度長期欠席・不登校調査結果について報告いたします。

まず表1ですが、理由別長期欠席数の推移です。長期欠席の合計人数は、小中ともに減少しておりますけれども、表2を見ていただきますように、不登校数は増加しております、小学校で139名、中学校で166名となり、合計300名を超えた305人となりました。これを100人当たりの人数で今回発表された国・県と比べると右のグラフになります。飯田市は青で示されていますけれども、中学校で国・県よりも低く、小学校で国より高く県より若干低いという結果になりまして、小中合わせると国より高く、県より低いと、そういう結果が出ました。

その表2の下にあるグラフを見てください。学年ごとの不登校児童生徒数の推移が示されています。このたび、国・県で発表されたものによると、小学校一年から中学三年まで右肩上がりで増えていく傾向が国・県にはあり、例年の傾向なんです、飯田市の場合は小学校まではその傾向があるんですが、中学に入ると中一をピークに中二以降減ってきます。あと令和4年、3年、2年度も中学校については必ずしも中一年から中三にかけて増えていくということではないというようなことが、飯田市とすれば特徴的なところかなというふうに思います。

表3ですけれども、前年度からの不登校者の数を見ますと、小学校では前年度からの不登校者よりも、新たに不登校になっている児童生徒が多く、中学では新たに不登校になる生徒の数より去年から継続している不登校生が多いと、そういう結果が令和5年で出ました。小学校六年、中学校一年にかけて見ていただくと、こういった逆転が起こっているということが分かります。

また、表4ですけれども、これはどれだけの日数を休んだかということですが、

小学生より中学生のほうが休みが長期化する傾向があることが分かります。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、質疑など発言ございましたらお願いいたします。

11月1日に、全国では45,000人昨年度増えたという報道がなされましたけれども、全国、増加傾向はやはり同じなんです、学年当たり人数当たりのところは少し違いが出てきているかなというところであります。

北澤職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 表1のところになります、不登校児童生徒の在籍比のところ、飯田市の場合、小学校は全国よりもずっと低く推移してきたのが、近いところに来て急に全国よりも上になっていますね。逆に、中学は在籍比を見たときに、全国を超えることがあまりない。小学校が令和3年の辺から、一気に全国より上がってしまっている。その原因が言えれば誰も苦労しなただけけれど、統括のほうで学校現場の様子とか、支援会議を聞いていてとか、何かありますか。

○教育長（熊谷邦千加） はい、三尾教育指導主事統括。

◎教育支援指導主事（統括）（三尾利彦） そちら辺はよく分かりません、正直なところ。

教育支援指導主事が中学校を中心に張り付いていて、そして小学校を訪問支援するような形でずっと来ていたわけですが、この反省を受けまして、小学校へも常駐するよう配置する方向にこの6年度から変えました。特に不登校児童が多かった3校を重点小学校として教育支援指導主事を配置しましたが、こういった小学校で増加しているという部分を受けての対応なんです、その原因についてはちょっと分かりません。

○教育長（熊谷邦千加） さらにいかがでしょうか。

原因の特定がなかなか難しいですが、小二・小三・小五辺りが5年度にちょっと増えているなというところは私も見て感じる場所です。

まあ中学校は少し改善の方向性が少し変わってきたなあっていうふうに見えておるところですが、小学校は三・四と増えて、県よりはそれでも低いですが、そういうふうになってるなという原因は、なかなか難しいところではあります。

さらに、ご質問ご意見等ございますか。

よろしいでしょうか。

学校訪問の中でも見ていただいて、お気づきの点があればご意見をいただければと思いますが。

はい。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 一つだけ、ここで言っているのか迷いますが、特に小学校の場合、学力と言っても幅が広いので様々な考えがあるのですが、古い言葉で言うと、「読み書き算」に関わるような、基礎・基本に当たる学力の習得について、小学校で不登校のような状況になったとき、それを身につける機会がうんと薄くなってしまふ、習得の機会が限定されてしまふということに心を痛めています。

言い方はよくないですが、中学生ぐらいになってもし不登校というようなことになった場合では、例えば、小学校である程度の基礎的な学力が身につけていると、個別で学ぶとか、ネットを通して何か見て学ぶとかというようなことも含めて、次の進路とか、次のステップへ向かっていけるケースは多い。そのことは、自分が関わったお子さんたちの様子からもよく分かっているのですけれど、小学校の特に低学年・中学年ぐらいの段階で学校に行きづらいという状況になったときに、どうやって基礎学力を保証してあげるのかという辺りのところ、すごく胸が痛む。保護者の方にとっても、この子の将来というようなことを考えたときに、どこかから何か手を差し伸べてもらえないかとか、手立てがないかとか、基礎学力が身につけられる機会がないかというところは、悶々とするところだと思います。

中学のことも悩ましいけれど、それ以上に小学校の不登校については、自分の思いからすると、ちょっと重いなという思いでいるので、そこをなんとかしていきたいという思いを強く持っています。小学校の中間教室をつくっていただいた3校。それから、自力でつくっているところもいくつかある。今年から始まったことですが、そういうところに注力したり、てこ入れをして支えていきたい思いです。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

三尾教育支援指導主事（統括）。

◎教育支援指導主事（統括）（三尾利彦） 今のご指摘は本当に心配される場所なんですけれども、この言い方、いいのかどうなのか、表の4を見ていただくと、いわゆる長期に休むお子さんの様子が出ていますが、例えば全欠席のお子さん、中学校4名に対して小学校は0というような形で、比較的、小学校、その次の10日以内の出席もそうなんですけど、あと90日以上欠席している児童生徒数を比べてみますと、小学校の子どもは30日以上は超すんですけど、途中から出てこれたり何かの機会でもね、長引くことはあまりないというのは一つの救いではあります。

なので、学校に出てきた、あるいは学校につながられる、なるべくつないでおけば、そのうち出てこれるようになる。小学生はそういう傾向にあると。でも中学校の場合は、な

かなかそこらが難しいって言うことは、小学校にとっては一つの救いかなというところがありますので、また小学校についても長期にならない、学校とつないでおくような方向で楽しい学校づくりに努めていけたらと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） さらにございますでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） それではなければ、この議題・協議につきましては以上といたします。

次の協議の議題に入りたいと思います。

（3）公の施設の指定管理者の指定について（飯田市旧飯田測候所、飯田市今田人形の館、飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館）

○教育長（熊谷邦千加） 公の施設の指定管理者の指定についてを議題といたします。

議題の説明について、飯田市旧飯田測候所とそれから飯田市今田人形の館、飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館について、それぞれ説明をお願いします。

では、下平文化財保護活用課長。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 文化財保護活用課から、公の施設の指定管理について、報告をさせていただきます。

資料は別紙の資料No.1をご覧ください。

対象となる施設は、旧飯田測候所です。旧飯田測候所は、平成19年に市が取得し、24年に登録有形文化財に登録されています。令和3年度までは、現在のゼロカーボンシティ推進課の所管でしたが、指定管理者の撤退に伴いまして、令和4年より当課で所管替えをし、直営で管理を行ってきたところです。その間、橋北地区との企画管理活用のあり方に関する協議を重ねておりまして、地域からは「民間活力の導入による測候所の活用が必要」との意見がまとまったことで、民間活力の導入による指定管理者の選定を進めてまいりました。

資料をご確認ください。施設の概要、管理の状況、利用の状況、収支の状況については、1ページの1の公の施設の概要を御覧ください。

指定管理者選定の経過については、4ページの2を御覧ください。経過にはお示しませんが、選定に当たっては書類審査、プレゼンテーション審査、庁内の指定管理者選定委員会の審査を経て、指定管理者候補といたしまして、「リテラスプロジェクト」という団体が選定されました。

また、条例に従いまして、橋北地域協議会への諮問も行い、「特段の意見なし」という報

告を受けているところです。

団体の概要については、5ページの(2)選定の結果、ア、団体の概要にお示ししていますが、この団体の方々のご存じかと思いますが、2021年から仲ノ町の春草通りを中心としたところで開催をしました「春創てらす」を2回やっております。あるいは、測候所をメイン会場として開催した「光のてらす」などのイベントをやってくださった方々で、その際の参加者アンケートから、測候所をどういうふうにご利用したらいいかということ把握した上で、賑わいや交流などの地域活性化の拠点としての測候所の活用を目指して指定管理者に応募されています。

6ページに選定の理由をお示しています。今までの地域連携の取組実績もあり、登録有形文化財の活用、中心市街地活性化、地域連携の点、施設の有効活用が期待できる点などから総合的に判断しております。

適格性に関する診断点数は同ページの(3)に示しています。

なお、指定管理料は、年間355万8千円、指定管理期間は令和7年4月1日から令和10年3月31日の3年間としています。

ご協議をお願いいたします。以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 続いてお願いします。

筒井飯田文化会館館長、お願いします。

◎文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは、文化会館が関係します公の施設の指定管理の指定についてでございます。

対象となります施設に関しましては、別紙の資料の9ページから始まっています。9ページからと15ページからということもありまして、2つ同時に説明させていただきたいと思っております。

施設といたしましては、「飯田市今田人形の館」及び「飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館」でございます。

指定する団体は、飯田市今田人形の館につきましては、今田人形の館運営委員会、飯田市黒田人形浄瑠璃伝承館につきましては、黒田人形保存会でございます。

いずれの団体も平成22年4月から指定管理者制度により管理いただいております。直近では令和2年4月から5年間にわたり、それぞれの施設の管理を適切に行っていただいております。

施設の目的に即して地元で保存・継承されている今田・黒田両人形浄瑠璃の保存・継承を行うとともに、伊那人形芝居保存協議会の活動や地域の集会施設としての利便性を確保

し、施設の有効活用が行われているため、継続して指定したいとするものでございます。

指定期間は、同施設とも令和7年4月1日から令和12年3月31日までの5年間でございます。

なお、指定管理の継続にあたりまして、飯田市地域自治区の設置等に関する条例第10条によりまして、当該施設が設置されております両地区の地域協議会に諮問をしておる最中でございます。

上郷地域に関しましては、11月5日に協議をいただきまして、「特にご意見なし」ということではありますが、龍江地区は今週11月15日にご意見を伺うということになっております。

資料のほうは9ページからと15ページからということで見ただけであればと思いますけれども、継続ということでございますので、詳細については割愛させていただきます。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この3つの指定管理につきまして、質疑などのご発言がありましたらお願いいたします。

特に、飯田測候所のほうは今回からというような形になっております。

特にございませんでしょうか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それでは質疑がなければ、この議題につきましては以上といたします。

日程第8 陳情審議

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程の第8、「陳情審議」ですが、本日は、陳情審議はございません。

次の日程に進みます。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第9、「その他」。

（1）教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「教育委員報告事項」。

教育長職務代理、あるいは教育委員の皆様方からご報告がございましたらお願いをいたします。

林委員さんから。

◇教育委員（林 綾子） 先日、10月25日金曜日の長野県市町村教育委員会研修総会のほうに出席させていただきました、午後の第2分散会というのに出席しました。

私の出席した分散会ですけれども、「子どもの育ちを支える市町村教育委員会の役割」ということで、立科町の発表でしたけれども、松並木の保存活動を通した小・中・高、3校の連携という発表でした。

松並木清掃というのを、こちらの立科町の教育委員会のほうが主催したわけではないですけれども後押しをして、それぞれ小・中・高が1校ずつ、この立科町にはありまして、そのよさを生かして3校で連携して松並木の清掃をしていたということです。そこから小学校総合学習のほうで、この松並木というのは実は浮世絵などにも描かれるとても歴史的文化的な背景がある景観であるということが小学校の総合学習で気づきがありまして。また、松のほうは、だんだん寿命で年々少なくなっているということが子どもたちも分かって、この松並木の公園の散策、あるいは説明なども教育委員会、社会教育課のほうでバックアップしてされたということでした。

そこから、いろいろと活動が広がっていくんですけれども、松が少なくなっているんで松の種まきしてみようとか。松の芽が出る、発芽するというのが難しいそうなんですけど、その辺りも市のそういった土木課とかになるかと思うんですけども、そういったところがバックアップというか支援をして一緒にやっただきって、実際、芽が出て、これから増やしていこうというような形だったり、あるいは遊歩道整備、パンフレットをつくる。訪れた方への感想ノートを用意する。あるいはその場所に金明水という名水があるんだそうですけども、その案内板を地元企業さんとコラボレーションというか、地元企業さんをお願いしてつくってもらおうという、そういうところまで発展していく松並木を中心とした総合学習っていうのを発表でお聞きしました。また始まりがやっぱりちょっとした子どもの気づき、この松並木って何か昔の人たちはどこを歩いて移動してたのかなあみたいな最初の気づきが、本当にちょっと訪れた場所で石碑を見て、明治時代につくられた並木っていうのがほかにあったそうなんですけど、「『え、じゃあそれより前はじゃあこの町の人たちはどこを歩いてたの』』っていうところから気づきがあって、そこを先生や教育委員会の、社会教育課の人たちが子どもたちの気づきに対して、チームでじゃあちょっと応援できることをしようというふうに仕組みを設けました」というような発表でした。

私自身もその松並木とかりんご並木っていうのが飯田市にもありますので、同じ並木だなということでもちょっとここに興味を持って参加させていただいたんですけども。やっ

ぱり先生ですとか教育委員会のほうでもこういった気づきに対してチームで支援できるっていうところがとても素晴らしいなど。また、子どもたちの活動がどんどん広がっていく様子を地域の方だったり、観光で訪れた方、あるいは、地元の企業の方が応援したっていう、とても何か素晴らしい事例であったなというふうに感じさせていただきました。

あともう1点だけすみません。先ほど教育長からもご報告がありました伊那谷文化芸術祭の11月3日の日に合唱の部というところを拝見させていただきました。

小学生から結構、お歳の大きな団体まで、たくさんいらっしゃって、どの団体も本当に素晴らしい歌声で、何か本当に気持ちが温くなるような素晴らしい歌声がたくさん聴きました。やっぱりこの地域にこういった形で、この4週にもわたってたくさんの団体が出演されるっていうのが、本当に文化っていうものが市民の皆さんが楽しんで参加されているという様子がとても素晴らしいなというふうに思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

何かご質問等ありますか。

職務代理。

◇教育長職務代理者（北澤正光） 今ちょうど林委員言われた伊那谷文化芸術祭のところですけど、私は3日の午後の管弦楽・吹奏楽の部のほうに行かせてもらいました。

高校生のきびきびした演奏と、大人の方の長年続けてきた安定した演奏を聴いて、心地よい時間をいただいたなと思っています。

特に最後のステージで、レベルアップ事業の成果発表として、名フィルのプロの指導を受けた大人の方たちと、指導されたプロのフルート奏者の方との両方の演奏が聴けて、さすがプロだなというところもお聴きすることができて、素晴らしい企画だなと思いました。

もう1点は、遅くなってしまったのですが、美博の菱田春草の生誕150年の記念特別展に行かせてもらいました。

夕方近かったのですが、たくさんの方が訪れていて、模写とか写生などの技量を磨き続けたというところの資料を、原点と比較しながら丁寧な解説がされていて、しかも大きめの活字にルビも振っていただいてあって、説明が分かりやすいなと思いながら見せてもらいました。

特に、メイン展示の四季山水の大きさにびっくりしましたし、そのところにも小下絵と大下絵を比べながら見えるような解説が施されていて、見るものにとっては本当にありがたい、なかなか見られないものを見させてもらったと思っています。

また、17 日からは「現代の創造展」があります。毎年楽しみにしているのですが、今年も企画されているので、それも見させてもらいたいと思っています。

最後、林委員も言っていた県教委連の研修会、私は第 2 分散会、松本市の発表のところに行きました。松本市には 40 数校あるそうですが、「学校の風を変えよう」というのがテーマの発表でした。学校に「緩やかな風が吹くように、当たり前を見直そう」というようなテーマで取り組まれて、「まだ歩みは遅々たるものだ」という話だったので、生徒や保護者の方にアンケートを取りながら、何なら変えていけるか、今まで当たり前と思っていたものを変えてみましょうという中で、制服の見直しを進めた学校とか、鞆に各学校のマークを入れるのを止めましょうと。要するにマーク入れるのを止めると、ほかの学校とも鞆のリサイクルで回し合いができる。校章を入れてしまうがために、その鞆がその学校でしか使えないというようなところは、今後止めていきたいと思います。それから T シャツ、飯田市でもかなり進んできていると思いますが、T シャツの色を紺色に改めることで、女子生徒が着やすい T シャツになったというようなことですか、大きな中学校では、男女一緒に更衣をしている状態を少しでも改善しようということで、廊下にパーテーションを置いて、女子と男子の更衣の場所を分けた。できるところからの小さな改善だけれど、学校を少しでも過ごしやすい場所に変えようという取組を進めている発表でした。

ということで 3 点報告です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

そのほかございましたら。

じゃあ、三浦委員さんお願いします。

◇教育委員（三浦弥生） それでは、定例会冒頭、教育長からお話ありましたとおり、私の教育委員としての任期が来月までということになりましたので、ごあいさつをさせていただきます。

2 期 8 年、毎月通わせていただいたこの定例会の最後の発言ということで、ちょっと紙にしたためてまいりました。言い残しがありますと悔いが残るかなと思ひまして、ちょっと紙を見ながら、ごあいさつさせていただきたいと思ひます。

8 年間、教育委員を務めさせていただきました。ちょうど私が務めさせていただいたのが 28 年度 12 月で、定例会前の最後の協議会の折に第 2 次の飯田市教育振興基本計画後期の取組に関するご報告がありました。これの前期の取組が平成 29 年の 4 月からスタートするよと、ちょうどそのようなとき、28 年度の終わりに委員になりました。

教育大綱は「結」ということ、飯田コミュニティスクールというものが小中全 28 校に認

定されたということで、その3月、上久堅小学校の卒業式に飯田コミュニティスクールの認定証を持って来賓で出席し、「ウェブに上げるから校長先生とそれを持って写真撮ってきてください」というような形で、私の教育委員はスタートしました。なんだか昨日のことのように懐かしく思い出します。

ほかにも本当にいろいろなことを経験させていただきました。上村の小学校の小規模特任校の開始、熱中症予防のために小中全てにエアコンの設置、GIGAスクール構想で子どもたちへのタブレット配布、中学生期の部活動への地域移行、あと今、学校のあり方ですとか平和祈念館のあり方ですとか様々なこと、教育委員会のその時々新たな課題への対応を目の当たりにさせていただいてきたとそのように思っております。

そして、何より記憶に残っていますのは、コロナ禍での感染症対策です。例となる、答えがあるというわけでない、そういうものに早急な対応が迫られる、そのような状況を教育委員会の事務局の皆さんが正解がないものに対して対応されていくと、そういったところにも立ち合わせていただきました。

本当に学校の先生方や教育委員の事務局の皆様方が2～3年のスパンで異動されるということを見ると、なんとも贅沢にこの教育行政に触れさせていただいたのだなと本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

全くもって知識不足であり、背伸びをしてわけの分からないような発言が多々あったかなと思いますが、まずそれが三浦の精一杯だったということで、ぜひお許しいただければとそのように思います。

そして私のようなものがこの教育委員を無事に終えることができるのは、このような私を受け入れてくださった熊谷教育長先生はじめ、北澤教育長職務代理者、そして、野沢委員、林委員、そして秦野次長をはじめとする事務局の皆様のおかげであったと本当に心からの感謝しております。

どうか今後とも飯田市の子どもたちの豊かな教育のため、そして飯田市の尊い社会教育資源のためご尽力いただきたいとお願い申し上げます。そして、私自身も市民としまして、また、保健や看護、高等教育に関わる者として、ここでの経験や思いを地域で生かしていきたいとそのように考えております。とは言いましても、まだ任期は1カ月ほど残っております、最後まで気を引き締めてまいりたいと思っております。

皆様、大変お世話になりました。ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加）　ありがとうございました。

（拍手）

○教育長（熊谷邦千加） それでは残りの任期を味わいたいと思います。

◇教育委員（三浦弥生） よろしくお願ひします。

○教育長（熊谷邦千加） 今ご報告ございました。

何かご質問等ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） それでは教育委員報告は以上で終了としたいと思います。

（2）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「教育次長報告事項」。

◎教育次長（秦野高彦） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（3）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして「学校教育課関係報告事項」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） こちら資料の記載等ございませんが、今年度第5回の飯田市これからの学校のあり方審議会が今月29日に行う予定でありますので、ご承知いただければと思います。よろしくお願ひいたします。

○教育長（熊谷邦千加） 今の報告について何かご発言ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） なければ、次へ行きたいと思います。

（4）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （4）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

◎生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（5）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（5）「文化財保護活用課関係報告事項」。

◎文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（６）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて（６）「公民館関係報告事項」。

◎市公民館副館長（上沼昭彦） 本日はございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（７）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（７）番「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

◎文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは文化会館から４点お願いいたします。

お配りしております順番にお願いしたいと思います。

まず、１点目、コンサート・ア・ラカルト第 80 ということで、クリスマスコンサート、白黒のチラシだったかなと思います。

12 月 8 日、日曜日ですけれども、この催しは市民の皆さんにもっと身近なところで音楽を感じていただきたいということで、地元などで活躍している演奏家が次々と出演するミニコンサートとなっております。ホルンの演奏ですとか女性合唱、お琴の飯田女子高等学校の邦楽クラブ、二胡の合奏の「にこにこフレンズ」こういった皆さんが行われますので、ぜひお越しいただければと思います。

続いて、ニュースレター第 11 号ということで、カラーの A 3 を半分に折ったニュースレターでございます。

これまでも新しい文化会館、新文化会館の整備に関するニュースレターということで定期的に発行しておりまして、今回、11 号目となりますけれども、昨年度、今年の 3 月末までに基本構想が完成しておりますけれども、今年度は整備基本計画に向けて専門家会議を立ち上げましてご議論いただいておりますということで、8 月に専門家会議を行いました様子ニュースレターにまとめたものでございます。

中面を御覧いただきたいと思いますけれども、左面のところに専門家会議でまず共有させていただいた 3 点ございます。基本構想が策定した後にいろいろ分かってきたことといたしまして、1 点目は「建設費が急激に高騰して先を見通せない状況になってきてしまっている」ということ。

2点目といたしまして、「基本構想を具現化するためには広大な敷地が必要となる」ということ。

3点目といたしまして、「リニア中央新幹線の工期延長」ということで、これは地元に戻りに説明がありましたけれども、「工期延長に伴い市の長期財政見通しの見直しが必要となる」というような状況は、その専門家会議で共有させていただいたということでございます。

いろんなご意見いただきましたけれども、その中で非常に課題が多いということが分かってきておるんですけども、後ろの面を御覧いただきたいと思います。その見出しに書いてありますけれども、現状の課題、非常に多くございますけれども、現状の課題をいかにプラスにできるかということで、非常に難しい問題・課題が山積しているわけなんですけれども、専門家会議の委員の皆さんからは、「段階的・分散的な整備の可能性もあるのではないか」というようなことで、今まで基本構想の段階では1カ所に一帯で整備しようということで進めてきたわけなんですけれども、それに対して3つの大きな課題があるということで、やはりこの課題解決のアイデアといたしまして、段階的に分散させてつくっていくという方法もあるということで、現状はマイナスということが非常に多いんですけども、それをいかにプラスにしていけるか、課題解決につなげるアイデアをどう議論に盛り込んで、今後この基本構想実現させるために検討を続けていくというご議論をいただいたということです。

ちなみに、実は本日午後6時から専門家会議の第2回を行うということになっていて、本日はオンラインでありますけれども、こういったところの議論をまたニュースレターにまとめまして、皆様に共有をしていきたいと思っております。

続いて、ワークショップ、「“集まる”をゼロから考える」ということで、これも新文化会館の今後に意見を反映させていきたいということで、今、企画をしてちょうど11月8日から第1回目を開催しておりますけれども、基本構想の中では「飯田ひろば」ということで人が集まる文化施設が必要ということで、基本構想をつくり上げていただいておりますけれども、やはりこの人が集まる文化施設ということに関しまして、どのようなご意見をいただけるのかということで、これまで文化芸術に関わっていなかった方も含めて、いろんなアイデアを今から募集していきたいということで、今年度はこの3回をワークショップという形でいろんなアイデアをいただきたいということで、第1回は11月8日に行いまして、第2回は11月22日、最終回は12月13日ということで予定をしておりますので、またこういった結果の中身に関しましてもニュースレターやウェブサイトでご報告をしていきたいというふうに考えております。

続きまして、最後、「森のぼかぼかクリスマス」A5版の小さなチラシでございます。

これは飯田市文化会館とNPO法人飯田人形劇センターと一緒にやっておる恒例のイベントでございます。人形劇フェスタ以外でも人形劇を市民の皆さんの身近なところで行いたいということで、このクリスマスの時期にかざこし子どもの森公園で行っておりまして、毎年好評をいただいております、定員を設けておるんですけども、学校巡回公演でも人気の「よろず劇場とんがらし」さんをお呼びいたしまして、企画を考えておるといことでございます。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） 後でまとめてご質問等をいただきたいと思います。

（8）図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして（8）「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

◎中央図書館長（瀧本明子） すみません、レジュメにはございませんが、1点ご報告させていただきます。

10月に飯田駅前図書館で「プロの漫画家から教わるマンガ教室」という企画を行いました。好本拓郎さんにマンガを教わったんですけども、小学生から一般の方まで14の方が出席してございまして、この11月2日にできた作品を提出していただきました。現在、複写ですが、できたキャラクターを駅前図書館に展示してあります。近く原画と一緒に展示する予定ですが、それぞれの方が非常に個性豊かなキャラクターをつくっていただいておりますので、機会がありましたら駅前図書館にお寄りいただいて御覧いただければと思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございます。

（9）美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして（9）「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

◎美術博物館副館長（榎村洋介） 本日、12月の「びはくにゅーす」をお配りしております。

菱田春草展が終わりまして、先ほど話もありましたけれども、第24回「現代の創造展」が11月17日から12月20日までに開催をされます。例年と同じぐらいの作家の方の出品が

決まっております。今年も活気のある会場となっていると思っておりますのでどうぞ御覧
いただければと思います。

それから12月21日から3月2日までですけれども、文化トピック展示ということで「生
誕150年 仏師井出嘉汕の眼と技」という展示を行います。

今年菱田春草の生誕150年でしたが、同じ年に生まれた方に飯田市の出身で仏師の井出嘉
汕という方がいらっしゃいます。明治時代にかけて多くの仏像をつくられた方でして、実
はもう一つこの方は美術品のコレクターとしても大変な有名な方でございます。その方が
集められた作品なども展示になりますので御覧いただければと思います。

それから第24回「現代の創造展」では、高校生による一日学芸員を12月1日に行う予定
になっています。高校生が現代の創造展で作品を見まして、その中で自分の気に入った作
品について魅力を発表するというような形で行う予定でございます。

裏面にいきます。裏面のプラネタリウムですが、プラネタリウムの向かって右側に「『S
ORA-Q フラグシップモデル』の操縦実演会」というのがあります。この「SORA-Q」
というのは、SLIMという小型で月へ着陸した実験機がありましたけども、それに
載っていた小さな観測用ロボットのことであります。これはタカラトミーという会社がつ
くったものですが、これが今、月のほうで観測をしているんですが、その原寸大の模型が
ございまして、美術博物館のロビーで展示をしております。それを実際に動かすイベン
トも計画しています。

その他、自然講座、文化講座等ございますので、お時間あれば御覧いただければと思
います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(10) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いて「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴史研究所副所長。

◎歴史研究所副所長（牧内 功） 本日、11月30日に開催します飯田アカデミア第105講座のチ
ラシを配らせていただきました。

当地域でも課題になっております歴史資料の散逸ということで、歴史資料の散逸の要因
と救い方ということで、西村慎太郎さん、国文学研究資料館教授でございますが、この方
を迎えて講座行う予定でございます。お目通しいただきまして関心がありましたら、また

ご参加いただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） 以上の報告につきまして、何かご質問等ご発言がありましたらお願いしたいと思います。いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

（「ない」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、ありがとうございました。

（11）今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） それでは日程の（11）「今後の日程について」。

福澤学校教育課長。

◎学校教育課長（福澤好晃） それでは2ページの下段をお願いいたします。今後の日程についてでございます。

教育委員会の定例会、次回12月の定例会は12月13日金曜日、協議会、今のところ14時半を予定しておりますが、また内容等によりまして詳細な時間の通知を申し上げますがよろしくをお願いいたします。また、1月定例会は1月21日火曜日を予定しております。よろしくをお願いいたします。

続きまして、現在お世話になっておりますが、教育委員会の学校訪問、これ2日でございます。来週の月曜日18日とその翌週25日になっております。それぞれ集合時間が異なりますので、いま一度ご確認をお願いいたします。

それから、11月28日に第4回の飯田市校長会、12月12日に第4回の飯田市教頭会がございますので、それぞれまたご予定をお願いいたします。

私からは以上になります。

○教育長（熊谷邦千加） 日程に対して何かご発言ございますか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい、それでは次に進みます。

日程第10 閉会

○教育長（熊谷邦千加） それでは、日程の第10、「閉会」。

以上をもちまして、本日の日程は全て終了いたしました。

日程以外で何か言いそびれたことございましたら。

秦野次長。

◎教育次長（秦野高彦） すみません、学校訪問のときにお話をさせていただきましたが、千栄小学校の校舎の裏手と言いますかの崖が今崩れているところの対策とその後の対応について報告させていただきます。業者さんと打ち合わせの中で、まずは応急処置で安全を確保することができそうな対策を行えることになってまいりました。学校としては、千代小学校へ移動して一緒に授業を行うことも考えてはありましたが、移動しなくても、対策工事を進めていけるような段取りを進めておりますので、ご報告をさせていただきたいと思えます。

よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの報告について、何かご質問等ございますか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） それでは、以上で教育委員会定例会を閉会といたします。

本日はお疲れ様でした。

閉 会 16時05分